

登録コード	L2720100		開講年度	2026			
担当教員	中澤 光平			副担当			
授業科目	日本語学概論						
英文授業名	Japanese Linguistics: Introduction						
授業タイトル	日本語学の基礎						
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	木曜・1時限
講義室	人文第4講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前加わらぬ対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力				日本語という身近な存在に対し、音声学や言語学の知識をもとに客観的な分析ができるようになる。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加わらぬ対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】				日本語学に関する基本的な概念・用語を理解し、日本語を言語学的な観点から分析することができるようになる。		
授業で学べる「テーマ」	芸術文化、多文化協働						
全学横断特別教育プログラム	ローカル・イノベーター養成コース						
授業の概要	日本語には古代から現代までという時間的（歴史的）多様性と、方言という空間的（地理的）多様性がある。そのように多様な日本語をどのように分析するかという視点が日本語学には必要である。この授業では、日本語の体系的、網羅的な分析を通じて日本語研究の方法を学び、論理的な思考力を身につけることを目的とする。 「概論」では現代日本語（共通語）を主な対象として、日本語学に関する学術的な概念・用語について解説する。単に丸暗記するのではなく、自ら問題を発見し解決するのに役立つ能動的な知の習得を目指す。内容は音声・音韻、文字・表記、語彙、文法などに分けて扱うが、相互の有機的な結び付きを意識し多角的な分析が行えるようになることを目標とする。						
授業計画	第1回 「日本語学概論」について 第2回 日本語の文字・表記 第3回 日本語の音（1）：音声と音韻／母音／子音（1） 第4回 日本語の音（2）：子音（2）／特殊拍・音節構造 第5回 日本語の音（3）：超分節音 第6回 日本語と語形成 第7回 日本語の品詞分類／活用語 第8回 日本語の文の組み立て 第9回 日本語のヴォイス 第10回 日本語のテンス、アスペクト 第11回 日本語のモダリティ／文タイプ 第12回 日本語の語彙（1）：語と意味（類義・反義・多義・包摂関係） 第13回 日本語の語彙（2）：語種／位相語 第14回 日本語と敬語 第15回 まとめ、授業アンケート 定期試験						
成績評価の方法	リアクションペーパーに基づく平常点（50％）と期末試験（50％）をもとに評価する。 リアクションペーパーは第2回～第14回の計13回分の提出が求められる。 期末試験は下記のいずれかを満たす場合に受験を認める。 ・出席が12回以上（初回、最終回を含む） ・アンケート（リアクションペーパー、授業アンケートとは別）への回答が10回以上 ・授業期間中に実施する確認小テストの得点が8割以上						
成績評価の基準	日本語学の重要事項を不完全ながらも理解し表現できる水準への評価は「可（その水準にある）」 日本語学の重要事項を正確に理解し表現できる水準への評価は「良（やや上にある）」 日本語学の全体を理解し表現できる水準への評価は「優（かなり上にある）」 日本語学の全体を理解したうえで自主的な学習の成果が認められる水準への評価は「秀（卓越している）」 上記に至らないものは「不可」						
事前事後学習の内容	講義内容について復習して知識の定着を図るとともに、参考書等により予習を行うこと。 60時間以上の時間外学習が必要となる。予習と復習は併せて毎回4～5時間程度行うこと。						
履修上の注意	「日本語学概論」は「概論」を履修していることが前提となる。そのため、教職課程その他の関係で「日本語学概論」を1つ履修する予定の場合は「概論」の履修を強く推奨する。 日本言語文化コース所属（希望）の学生は「日本語学概論」も履修することを推奨する。また、「日本語史」の授業を受講する場合、事前もしくは同時に「日本語学概論」を受講しておくのが望ましい。						
質問、相談への対応	できるだけ講義が終わった後に質問するように。授業後に提出を課すリアクションペーパーに質問事項を						

質問、相談への対応	書いてもよい。必要であれば教員あてにメールでアポイントメントをとること（メールアドレスは kohein@shinshu-u.ac.jp）。
教科書	使用せず、毎回プリントを配布する。
参考書	沖森卓也（編著）（2010）『日本語概説』朝倉書店 衣畑智秀（編）（2023）『基礎日本語学 第2版』ひつじ書房